

いしい あみ
石井 亜実 先生

令和7年度採用



－教員を目指したきっかけは何ですか。

私が小学生だったときに、友人関係が理由で「学校に行きたくない」と感じたことがありました。そのとき、担任の先生が私の気持ちに寄り添い続けてくださったおかげで、休まず通うことができました。この経験がきっかけとなり、「私も子ども一人一人の思いに寄り添うことができる存在になりたい」と考え、教員を目指しました。

－教員になる前と実際になった後で、（教員に対する）印象の違いなどはありますか。

教員になる前は「教員の仕事は忙しい。」というイメージをもっていました。実際に現場に立つと、子どもたちの顔を思い浮かべながら授業などの準備をすることで、その忙しさも前向きなものに変わりました。

また、授業中に聞こえてくる「できた!」「もっとやりたかった!」という子どもたちのつぶやきが、私の日々の原動力になっていると感じます。周りの先生方にも支えていただきながら、日々の仕事に向き合うことができます。

小学校教諭

－広島市で働くよさ（広島市の魅力）はどんなところだと思いますか。

平和学習を身近に感じることができる場所だと思います。特に、袋町小学校は平和記念公園や袋町小学校平和資料館、愛宕池など平和に関する場所が近く、実際に見に行くこともできます。自分たちが住んでいる町の歴史を知ること、「町を大切にしたい。」「この町のことを伝えたい。」という思いを育てることができ、地域への愛着をもつことができると考えます。

－教師になってよかったなと感じた瞬間はどんな時でしたか。

子どもたちができなかったことに挑戦し、できるようになった瞬間に立ち会えたときにとってもやりがいを感じます。そのときの達成感に満ちたキラキラした子どもたちの表情ははととても輝いています。子どもたちの成長を間近で感じることができるのが教師の一番の魅力だと感じています。

－教師として大切にしていることや、日々の業務で心がけていることを教えてください。

私自身に余裕がなくなり、子どもたちの成長を見落としてしまいそうになることがあります。そのようなときは「10秒待つ」ということを意識しています。つい、子どもたちを急かしてしまうときがありますが、10秒待つ話を聞いたり、目を見て関わったりすることで、自然と子どもも私も笑顔になっているときがあります。この10秒が、子どもたちとのよい関係を作っていると思います。



うどう しゅうへい
有働 周平 先生

令和7年度採用



ー教員を目指したきっかけは何ですか。

小学校・中学校・高校・大学と16年間サッカーを続けてきた中で、私の近くには必ず「先生」や「指導者」という存在がありました。先生方の支えは私のサッカー人生の中で大きなもの、無くてはならないものであり、先生方の励ましや言葉に何度も心を動かされました。「そんな先生方のように誰かのために自分も貢献したい。」と思わせてくれたことが、私が教員を目指したきっかけの1つです。

ー教員になる前と実際になった後で、(教員に対する)印象の違いなどはありますか。

教員として働く前は「忙しい」「大変そう」というイメージで不安でしたが、実際に働いてみると、違った考え方も生まれました。授業では生徒の成長をそばで見て感じる事ができ、やりがいや喜びを感じる瞬間が多くあります。また、普段は何気ない会話で楽しませてくれて、困ったときには助けてくれる同僚の先生方がたくさんいるので、「忙しさ」の中にも多くの「楽しさ」があり、過ごしやすい環境で働くことができます。

中学校教諭

ー教員になってよかったなと感じた瞬間はどんな時でしたか。

私の授業に生徒たちが積極的に参加し、楽しそうに取り組んでいる姿が見られると、とてもうれしく感じます。

また、「授業楽しかった!!」と生徒に言ってもらえた時や「先生ありがとう。」と感謝の気持ちを伝えてもらった時は、教員になってよかったと感じるとともに、これからも頑張ろうと思います。



ー教員として大切にしていることや、日々の業務で心がけていることを教えてください。

私が日々の業務で心がけていることは、「相談すること」です。私は、「1人で抱えこんで解決できることは少ない」と考えているので、「困った」「悩んだ」「分からない」ときは、とにかく相談しています。相談することで、教員同士のコミュニケーションにもつながっているのかなとも思います。教員としての経験が浅い分、多くの先生方を頼りにしています。



やの 矢野 鈴夏 先生

平成31年度採用



ー教員になる前と実際になった後で、(教員に対する)印象の違いなどはありますか。

教員になる前は、生徒指導や進路指導に対して不安を感じていました。しかし、実際に教員として働き始めてからは、相談できる先輩方に恵まれ、教師は一人で抱え込む仕事ではなく、チームで支え合いながら取り組む仕事であることを実感しました。

ー教員として大切にしていることや、日々の業務で心がけていることを教えてください。

教員として大切にしていることは、生徒にとってどのような人生が望ましいのか、そして「自分はどのように生きていきたいのか」を生徒自身が考えられるように寄り添うことです。また、生徒と向き合う中で、私自身も一緒に成長していきたいという思いを大切にしています。そのため、新入生を迎えたり、新しくクラスを持ったりするときは、自分自身も新しいことに挑戦するよう心がけています。例えば、ドラムを習い始めたり、山登りに挑戦したり、資格試験に取り組んだりしています。成長することの難しさや楽しさを生徒と共有することも、教員として生徒に寄り添う一つの形だと考えています。

日々の業務においては、無理を重ねるのではなく、長く続けていける働き方になっているかを意識しながら、持続可能な業務体制を考えて仕事に取り組んでいます。

高等学校教諭

ー教員になってよかったなと感じる瞬間はどんな時ですか。

初めて卒業生を送り出したときは、言葉では言い表せないほどの感動を覚えました。さみしさを感じる一方で、それ以上に、立派に成長し、自分の力で巣立っていく生徒たちの姿がとても輝いて見え、教員になって本当によかったと感じました。

また、日々の学校生活の中でも、授業や部活動、校外活動などを通して、生徒が目標を達成したときや達成感を味わっている場面に立ち会うと、その喜びを一緒に分かち合えることに、この仕事ならではのやりがいを感じます。

ー教員を目指す方へメッセージをお願いします。

私が特に大切だと思うのは、学生のうちにさまざまな街へ出向き、多様な価値観に触れておくことです。私は、自分とは違う考え方や生き方に出会うことで、物事を一つの見方だけで決めつけない姿勢が身に付いたと感じています。知らない土地を訪れたり、新しい人と出会ったりする中で、面白いと感じたことや心に残ったことは、後々、必ず自分の引き出しになります。そうした経験は、生徒と向き合う場面や言葉を選ぶ場面で、自然と生きてくるものだと感じています。

採用試験に向けては、勉強に集中する時間も大切ですが、時には気持ちを切り替え、リフレッシュしながら取り組むことも大切です。学生のうちに得た経験や、自分なりに感じたことを信じて、採用試験を乗り切ってください。応援しています。



さ さ き ゆう き
佐々木 雄輝 先生

平成28年度採用



－教員を目指したきっかけは何ですか。

私の場合は、「教員になろうかな」という漠然とした思いをもっていたのですが、大学生のときに、アルバイトで学習塾の講師をしたことが教員を目指すきっかけになりました。説明の仕方を工夫することで「わかった」とこどもの表情が変わる瞬間に立ち会い、大きなやりがいと楽しさを感じるようになりました。その経験を通して、人に関わり、成長を支える仕事として、教員という道を改めて目指すようになりました。

－教員として大切にしていることや、日々の業務で心がけていることを教えてください。

私が大切にしているのは、こどもにとって授業が少しでも「楽しい」「分かった」「次もやってみたい」と感じられるものになるよう工夫することです。どうすればこどもが興味をもって取り組めるか、達成感を味わえるか、生活に生かすことができるかを考えながら、日々の授業づくりに向き合っています。

また、長くこの仕事を続けていくために、ワークライフバランスを大切にすることも欠かせないと感じています。限られた時間の中で業務を効率よく進めつつ、一つ一つの仕事を丁寧に行うことを心がけています。

さらに、特別支援学校では教員同士の連携が重要です。日頃から同僚とのコミュニケーションを大切に、情報を共有しながら、チームで子どもたちを支えていくことを意識しています。

特別支援学校教諭

－教員になってよかったなと感じる瞬間はどんな時ですか。

教員になってよかったと感じるのは、目の前のこどもの成長だけでなく、その先の生活まで考えながら子どもたちと関わっていることです。特別支援学校では、取組の成果がすぐに見えないことや、自分の思うようにいかない場面も多くあります。正直、手応えを感じられないまま一日が終わることも少なくありません。

それでも10年目を迎えた今は、目の前のこどもが「今できるようになったかどうか」よりも、「卒業後も安心して生活していける力や土台を育てられているか」を大切に考えるようになりました。日々の小さな積み重ねが、将来につながっていくと信じて関わることに、この仕事の意味があります。簡単な仕事ではありませんが、子どもたちの将来を見据えて伴走できることに、教員になってよかったと感じています。

－教員を目指す方へのメッセージをお願いします。

今しかできない経験を大切に、それを自分の言葉で語れるようにしておくことが自分の強みになると思います。試験対策に関しては、一人で抱え込まず、周囲と情報を共有しながら進めることで、安心して試験に臨めると思います。



ふくはら れな
福原 玲菜 先生

令和7年度採用



－養護教諭を目指したきっかけは何ですか。

養護教諭という仕事をはっきり意識したのは、中学生の頃です。当時、悩みを抱えていた私に養護教諭の先生が声をかけてくださり、その言葉に救われ、気持ちがとても楽になりました。その言葉はしんどいときにふと思い出すことがあり、今でも私の支えになっています。

また、大学生のとき、自分が養護教諭になれるのか不安でいっぱいだった時期がありました。そのとき、教育実習で指導して下さったベテランの養護教諭の先生が、こども一人一人と丁寧に向き合う姿や、教職員と連携しながら学校全体を支えている姿を間近で見て、「私も養護教諭としてこどもたちを支える存在になりたい」と強く思い、改めてこの道を志しました。

－養護教諭になる前と実際になった後で、（養護教諭に対する）印象の違いなどはありますか。

養護教諭の仕事は、救急処置や保健室に来るこどもへの対応が中心だと思っていました。しかし実際に働いてみると、それに加えて事務作業や調整業務がとても多く、目に見えない仕事が多くあることを知りました。

養護教諭

－広島市で働くよさ（広島市の魅力）はどんなところだと思いますか。

広島市では、養護教諭が専門職として安心して働ける環境が整っていると感じています。研修や情報共有の機会があり、一人職であっても悩みを相談できる体制があることは、大きな支えになっています。

また、広島市立学校は規模や特色がさまざまあり、地域に根差した教育に関わることができる点も魅力です。原爆被害の歴史を持つ広島ならではの、命や平和を大切にする教育が日常の中に根付いていることも、広島市で働く中で大切にしたい点の一つだと感じています。

－養護教諭になってよかったなと感じる瞬間はどんな時ですか？

話を聞きながらその子に合った手当てをしていく中で、不安そうな表情で来室した児童が、明るい表情になって教室へ戻っていく姿を見ると、自然と私の心も明るくなり、元氣をもらえます。

時には、体調不良等での来室が一人もない日もありますが、休憩時間に何気なく保健室に立ち寄って話をしてくれる姿から、子どもたちが日常を元気に過ごしていることを実感します。

こどもたちが大きな不調なく日常を過ごしていること、その当たり前を支えられていると実感できたとき、この仕事のやりがいを強く感じます。

